



**Before** 広い笑顔の3年生女子3人。17、8歳の等身大の表情で笑い、学生生活を過ごしていますが、ひとたび学ランに着替えると…



**After** 第56代 爲櫻應援團。3年生ともなると、威厳と風格が深まります。若の四字熟語はそれぞれが目指す精神を示しているそうです。



**巻頭特集** 凛々しく、力強く! 選手へ届け! 鼓舞の声

# 下妻一高・爲櫻應援團 女子団員

県立下妻第一高等学校には、部活動として年間を通して活動をしている「爲櫻應援團」があります。学ランを着る応援団リーダー部とチア服を着るリーダー部の総称で、水海道一高との定期戦や夏の野球応援に向けた活動を行っています。応援団といえば一般には男性社会というイメージが強い中、応援団リーダー部には女子団員が半分以上を占めています。なぜ女子生徒が増えたのか、そして「爲櫻應援團」を選んだ彼女たちの思いに迫りました。



## 歴史ある応援団入団への熱い想い

県立下妻第一高等学校(以下・下妻一高)は、来年度に創立120周年を迎える県内でも長い歴史と伝統を持つ学校です。為櫻学園という愛称でも親しまれ、現在においても脈々と受け継がれています。下妻一高は、高い進学率を誇りながらも、95%以上の生徒が部活動に励んでいます。学習と部活動を切り離さず、一体となって心身の発達を目指す姿勢、「文武不岐」の精神をモットーに、生徒たちは日々の学校生活を送っています。

数ある部活動の中でも、この数年で変化を迎えたのが純黒の学ラン姿の「リーダー部」と、華やかなチア服の「チアリーダー部」からなる「爲櫻應援團」です。一般には男子生徒が応援団、女子生徒がチアリーダー部と並び分けられ、それぞれに異なる社会性を持つ部活というイメージですが、この下妻一高の爲櫻應援團リーダー部には、ある特徴があります。それは全17名のメンバーのうち、過半数の10名が女子生徒であることです。

爲櫻應援團OBであり、現在顧問を務める大久保敦彦先生は言います。「応援団に初めて女子生徒が入団したのは、今から5年前の平成23年のことでした。その時パレー部に所属していた女子生徒がリーダー部に入りたいたとやって来ましたが、兼部は認められませんでした。どうしても入りたかったのであれば、



顧問 大久保 敦彦 教諭

## 可愛いよりもかっこいいに憧れて

3年生の八城美咲さんは、中学生の頃に見た演舞披露の印象が鮮烈だったと言います。「高校の説明会を見たとき、すごくかっこよくて、圧倒されたんです。説明会の後に演舞指導の体験もあったので、下妻一高に受かったら入団する」とすつと決めていました。3年生の秋葉美幸さんは、入学後の新入生勧誘での演舞を見て入団を決めました。「初めて見たとき、惹かれるものがありました。私は小さい頃から内気な性格だったので、それを直したいと思って入団しました」

福田葵さんは入団後の気持ちの変化を教えてくださいました。「一番大きな変化は、決断力が上がって視野が広がったこと。野球応援は当日何が起るか分からないから、その場の判断が大切なんです。でも、最初の頃は大声を出すことに慣れていなくて、声が震れたり低くなったりして、友達にも「えっ誰?」と言われたりしました」と、リーダー部ならではの悩みを口にしながら、懐かしそ



第56代團長 3年生 前島 優 さん

## 次の世代へ向けて

かつて先輩たちの姿に憧れた少女たちは今や最高学年。4月に新しい団員を迎え、次世代の育成と夏の甲子園に向けた練習に励んでいます。5月に行われた水海道一高との伝統の定期戦では見事勝利を挙げ、勢いに乗る下妻一高。創立120周年、定期戦も80回目を数える来年は下妻一高が決戦の舞台になります。今年の夏の高校野球も、ますます熱い盛り上がりを見せてくれることでしょう。

第56代團長・前島優さんは言います。「学ランに袖を通すと、スイッチが入ったように気持ち切り替わります。応援する気持ちに男も女も関係ないです。一人一人が、大切な仲間です」。体の底から声を上げ、その凛々とした立ち居振る舞いで球児だけでなく見る人、聞く人、すべての人の心に熱い応援を届ける爲櫻應援團を中心に、学校全体が一丸となる夏が、もつとく始まりです。



茨城県立下妻第一高等学校  
お問合わせ 〒304-0067 茨城県下妻市大字下妻226-1  
TEL ▶ 0296-44-5158 (代表)  
WEB ▶ <http://www.shimotsu14-hk.ed.jp>